

# 現代法学部開設 10 周年記念号の発刊に寄せて

現代法学部長 大 出 良 知

現代法学部は、2000（平成 12）年、東京経済大学が創立 100 周年を迎えたのを機に、21 世紀の法化社会における人材育成という「現代」の法学部に求められている課題に応えることを目指して開設された。そして、東京経済大学が、創立 110 周年を迎えた本年、開設 10 周年を迎えることができた。

現代法学部では、リーガル・リテラシーを身につけた市民の育成に向けて、従前の法学部にはなかったカリキュラムを用意してきた。例えば、リーガル・リテラシー入門や裁判傍聴演習といった他に類例を見ない科目によって基礎的な力を涵養するとともに、環境、福祉、消費者といった分野をコアとした社会と法をつなぐ試みも、学生達に現代社会における法の機能を具体的に理解するための新しい道を示すこととなった。

現代法学部は、1 学年定員 200 人でスタートし、現在は、250 人へと増員し、在学生 1,000 人を数え、巣立った学生は、既に 1,540 名にのぼっている。

卒業生達は、東京経済大学の伝統に恥じない就職率を確保し、幅広い分野で大いに活躍されていることはもちろん、司法書士試験の現役合格者や、法科大学院へ進学し新司法試験に合格し、法律専門職に進む卒業生も輩出し、着実に成果をあげつつある。それに伴い、応募者も確実に増加している。

教員も、24 名からスタートし、全学共通教育センターにも所属する教員を含め定員 29 名を擁するまでになっている。教員の研究活動も盛んで

現代法学部開設 10 周年記念号の発刊に寄せて

あり、その成果を公表する場となっている現代法学部の紀要であるこの「現代法学」も既に 19 号までを刊行し、開設 10 周年を記念する本号で、20 号を数えることになった。

11 月 13 日には、10 周年記念式典と祝賀会を催し、開設に関わられた関係者、卒業生、在学生、大学関係者・教職員が一堂に会し、盛会裡に 10 周年を祝うことができた。そして、「法化社会における人材育成」と題する記念講演を、本学部初代学部長であり、本誌を刊行する現代法学会初代理事長でもあった利谷信義先生にお願いすることができた。利谷先生のご講演により、「現代法学部」開設にあたっての理念、意義を一同あらためて共有することができただけでなく、現代法学部の新たな 10 年、100 年へ向けて、そして全ての現代法学部関係者にとって、貴重な糧となり、「現代」を生きる確信をも与えていただいた。その「現代法学」創刊に寄せられた思いを、ここにも再び掲載させていただき、現代法学部並びに「現代法学」のさらなる充実・発展を期したい。

「現代法学部の教育目標は、変化に富む現代的諸問題に取り組むヴァイタリティを持ち、その法的解決に活躍できる人材の育成である。現代法学部の教育課程は、現代的課題を総合的に分析して問題点を発見し、その法的解決の手段を調べ、考え、新たな対応策を生み出す力を養成することに主眼がおかれている。それは、法技術の修得ばかりでなく、根底に人間に対する愛情を秘めた正義の感覚を培うことをも含んでいる。そうでなければ、法技術は、合法の衣をまとった凶器と化する恐れなしとしない。

このような教育は、実は教員と学生とが協力して現代的諸問題の解決に取り組む中で、初めて実現するという面をもっている。……現代法の研究と教育は、現在の学部教育から失われた研究と教育の融合を、もう一度よみがえらせる可能性を秘めている。」